LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。
氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#08
マッジョーレ湖とヘミングウェイ

グランド・ホテル・デ・イル・ボッロメーオ&スパ

ミラノでの用事が早く終わり数日の余裕ができたので、かねてから行ってみようと思っていたヘミングウェイゆかりのマッジョーレ湖畔のホテルに短期滞在することにした。マルペンサ国際空港からレンタカーでマッジョーレ湖畔のストレーザまではアウトストラーダならものの3、40分で到着するのだが、ナポレオンが統治した時代に整備したという湖畔の道を走ってみた。湖を見下ろす高台には豪壮な邸宅が軒を連ねていて、古くから高級別荘地として貴族や政財界の人々に愛された地ということが伺い知れる。途中で通り過ぎた高級ダウンメーカーエルノ（Herno）のファクトリー&アウトレットのイタリアンモダンな建物と、クラシカルな邸宅との対比が面白いなと思っているうちに目指すホテルに到着した。

ホテルに一歩踏み入るとその豪壮な内装に思わず息を飲んでしまった。宮殿のような佇まいの「グランド・ホテル・デ・イル・ボッロメーオ&スパ」は既に150年の歴史を刻んだバッロク様式の5スターホテルだ。部屋からは雨に煙るマッジョーレ湖が手に取るように一望できて、否が応にもリゾート気分は盛り上がった。

バー・ヘミングウェイ

ホテルの説明によると、ヘミングウェイとホテルとの出会いは第一次世界大戦にまで遡る。赤十字の一員として従軍したヘミングウェイは、北イタリア戦線で重傷を負いこのホテルで静養する事となる。その体験が後の『武器よさらば』で描写されるホテルでの滞在と、ホテル前のマッジョーレ湖から小舟を漕いでスイスへ向かう舞台となったと言う。

ヘミングウェイというとフィッシャーマンの愛艇ピラール号でフロリダのキーウエストやキューバのハバナでカジキを追う姿が思い起こされるが、ヨーロッパ文化にも造詣が深く、ワインやカクテルをこよなく愛した事でも知られている。愛飲していたボルドーの5大シャトーの一つ、シャトー・マルゴー（Chateau Margo）の名を孫娘で女優となったマーゴ・ヘミングウェイ（Margo Hemingway）に名つけたのはその表れの一つだ。酒豪としてもその名は轟いていて、パリのホテル・リッツのバーではマティーニを50杯も飲んで、当時パリで幅を利かせていたドイツ軍人をバーから追い出してしまったと言う逸話が残っている。そんな話にも興味を持って、かつて僕はリッツのバーのソファに深々と身体を埋めて当時の様子を思い描いたりした事があった。今そのバーは「バー・ヘミングウェイ」と名が付き、多くのヘミングウェイとカクテルファンが集う場所となっている。ハバナではダイキリやモヒートを愛し、毎日のように通った「エル・フロリダータ」のカウンターの端には、彼の銅像が微笑んでいるという。

そんな事を空想しながら僕はボッロメーオのバーに腰を下ろし、壁に飾られたヘミングウェイの顔写真と彼のサインをつくづくと眺めた。そこにはもう一枚、ホテル前の湖に女性と小舟に乗る彼の写真が飾られていた。僕は写真を眺めながら小説のシーンを思い出していた。

……主人公ヘンリー中尉は軍を脱走し、ミラノから列車でストレーザに到着する。駅から馬車を仕立ててイル・ボッロメーオへと向かう。妻のキャサリンと後日再会し、ホテルの素晴らしいリストランテでの食事を楽しんだり、親しいバーテンダーのいるホテルのバーでマティーニをやったりして過ごす。ある晩部屋にバーテンダーがやってきて明朝官憲が逮捕に来る事を知らせてくれる。バーテンダーが持っていた木造の手漕ぎボートを譲って貰い、暴風雨の漸く収まった夜中に脱出に成功する……。

『武器よさらば』の映画化で主演のジェニファー・ジョーンズとロック・ハドソンがこのホテル前から小舟で逃避行を始めるシーンと重なった。

かつて愛読したヘミングウェイにまた出会う事ができた今回の旅、連日の冷たい雨の憂鬱さも吹き飛んでしまった。外出もままならない数日を彼の愛飲したカクテルをやりながら過ごす事で、イタリアは僕にまた、特別な時間と物語を与えてくれた。 ***P.B.***

湖から見たホテル外観と、ロビーから続くバー、そして残されたヘミングウェイの写真。バーの内装は第一次大戦後、ヘミングウェイが静養のため滞在していた当時と変わらないという。

マッジョーレ湖の船着場とベッラ島。この島は中世から続くボッロメーオ家のプライベートアイランドで、有名な庭園と宮殿がある。ボッロメーオ家の娘とモナコ王子との結婚披露はこの宮殿で行われた。

Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。